

# きのくに自主防災

創刊号(平成18年11月)

発行元：和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局（県庁総合防災課内）

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL:073-441-2271



## 「会報誌の創刊によせて」

和歌山県危機管理監 石橋秀彦

このたび、和歌山県自主防災組織情報連絡会の会報誌を創刊するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

平素は、和歌山県政、とりわけ防災行政に多大のご理解とご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

本県では、これまで東南海・南海地震、また昭和28年の大水害などの大災害により多大な被害を被ってまいりました。

今また、東南海・南海地震が今後30年以内に50～60%の確率で発生するといわれ、全国各地で集中豪雨等による土砂災害が発生するなど、これまで以上に災害に対する備えが重要となっています。

これら災害による被害の軽減を図るには、県民一人ひとりの「自助」、地域での助け合いによる「共助」、そして行政による「公助」が相互に連携した防災協働社会の実現が必要とされています。

中でも、「自助・共助」については、大規模災害発生時の行政や消防機関等の対応能力には限界があることから、被害軽減に果たす役割が非常に大きいと考えられ、本県においても「自助・共助」を基本とした地域防災力の向上は重要な課題であります。

地域での防災力を高めていくということは、住民一人ひとりが高い防災意識を持つというだけでなく、自主防災組織を中心として、皆さんが丸となって防災という視点から自分達の地域づくりについて話し合い、実践していただく事に他ならないと思います。

この会報誌も、自主防災組織の取組事例など地域での防災活動に有益な情報を積極的に取り上げることにより、皆様方の地域防災活動の一層の活性化に資するものとなるよう取り組んでまいりたいと考えています。

結びに、皆様には地域における防災活動の輪をますます広げていただくことをお願いし、創刊にあたっての言葉とさせていただきます。

## ～防災活動ひろば～

県内で積極的に防災活動に取り組んでいる3つの自主防災組織(田辺市文里自主防災会、橋本市城山台自主防災会、串本町大水崎区自主防災会)の方に話を伺いました。

### 文里自主防災会(田辺市)

昭和の南海地震の際、津波により37名もの人命が奪われた田辺市文里地区。今後30年以内に発生する可能性がある「東南海・南海地震」でも、津波による被害が予想されています。その地区で、平成14年10月の結成以来今日まで、災害時一次避難場所への避難路の整備、年2回の避難訓練、広報紙への防災記事の掲載、防災グッズの各戸配布など様々な活動を続けられ、平成17年5月には和歌山県知事表彰を受賞された「文里自主防災会」。その副会長である名越隆行さんに自主防災会の活動のポイントを伺いました。



↑文里自主防災会が整備した避難路(左)と避難路の先にある一時避難場所(右)。少しずつ防災会のメンバーで修繕を行っていくとのこと。

- 問：会を運営していく上でのポイントを教えてください。
- 答：「遊び心」・「継続」・「自助なくして共助なし」です。
- 問：「遊び心」とは？
- 答：「毎年2回行う避難訓練など、行事に大勢参加してもらうための工夫は欠かせませんね。起震車による揺れの体験や、炊出訓練の食糧を持ち帰ってもらうといった目玉イベントを用意して、人が集まってくれる方法を考えています。毎回同じでは、参加する方も楽しくないですし。私たち運営メンバーも含め、皆が遊び心をもって出来ることをやっというと思っています。
- 問：「継続」とは？
- 答：会で整備した避難路なのですが、平成15年に整備してこれまでに何度も修理を重ねています。最初に完璧につくってしまえばそれでいいのですが、うちの会は、少しずつ何度も皆で手を加えるようにしています。作業を継続することにより災害に対する意

- 識も薄れないでしょうし、何より「遊び心」で作業することを楽しんでいますし。心配される東南海・南海地震は、何十年先になるかわかりませんから、続けることが大事だと思っています。
- 問：「自助なくして共助なし」とは？
- 答：「自助なくして共助なし」ということについてですが、以前に、避難訓練で通行不可能な道を設定したことがあります。1本の道にバリケードをはったのですが、避難される方から「どこを通れば？」と尋ねられました。でも、そこは自分で考えてもらいました。普段から避難経路は3本考えておくよう呼びかけてはいたのですが、この時にやっと考えてくれたと思います。冷たい言い方かもしれませんが、災害時には防災会が住民を守る訳ではありません。全てをやってくれると思われてはダメで、自分で考えて行動し、自分の命は自分で守ってもらわないといけないのですから。地域での共助は、自助がなければ成り立ちません！

### 城山台自主防災会(橋本市)

橋本市北部の丘陵地にある城山台地区は、大規模に開発されたニュータウンの一つで、20数年前に誕生しました。大阪への通勤圏でもあることから、住民の方は、他府県から移り住んでこられた方も多く、地縁等による結びつきの薄いコミュニティです。この城山台地区で、自主防災会の代表として活躍されている連合自治会長である辻沢昌平さんに活動内容等について話を伺いました。



↑城山台自主防災会主催の防災訓練。傷病者の搬送訓練(左)と消火訓練(右)の様子

- 問：城山台地区の自主防災会の概要を教えてください。
- 答：現在、城山台地区には、約1900世帯が暮らしており、組織としては、1～4丁目までの各丁目単位の自治会があり、さらに約30ブロックで構成する自治会

- 組織があります。それをそのまま防災組織にしています。活動組織は、情報・初期消火・救出救護・機動・避難誘導・給食給水の6班で構成されています。

●問：主な活動実績を教えてください。

○答：①毎年、自主防災会主催による防災訓練の実施、  
②防災に関する意識調査の実施、③防災講座の定期的な開催などです。

●問：苦勞している点は？

○答：この地域では、非常に熱心に自主防災組織の活動に取り組んでいただいている方も多いのですが、一方で、無関心な方もいます。そのような方も防災訓練などに参加していただくことで、防災意識が高まっていくのではないかと思いますので、多くの住民の方が防災訓練に参加していただけるように取り組んでいきたいと思っています。

●問：今後、特に力を入れていくことを教えてください。

○答：今後も、防災訓練を実施し、地区住民の防災意識の向上に努めていきたいと思っています。

自治会組織の役員は、毎年変更するため、継続性をもちにくい面があります。自主防災組織の活動については、特に継続的に進めていくことが大事であると思っていますので、将来的には、同一になっている自治会組織と分離した形の自主防災の組織づくりを進めてことができると考えております。

また、この地域でも最近、高齢者世帯が増加しています。今後は、高齢者や障害のある方など一人では避難できない人の対策にも力を入れていきたいと思っています。

### 大水崎区自主防災会（串本町）

東南海・南海地震において、地震発生後 10 分以内に津波の到達が想定される串本町。短時間で津波からの避難が求められるこの町において、平成 12 年に設立した大水崎区自主防災会は、早くから避難路の整備を進めてきた自主防災会です。平成 16 年度に防災功労者内閣総理大臣賞を受賞する等、その取組が高く評価されています。

今回は、その活動について自主防災会会長の<sup>たや</sup>夢屋義三さんに話を伺いました。

●問：避難路整備の取り組みについて教えてください。

○答：防災活動を始めるきっかけは、北海道奥尻町長から「津波の避難路は何本も確保しておくほうがいい」という話を聞いてからで、大水崎区でも新たな避難路の確保に向けた取り組みを進めていきました。線路の横断について JR に了解してもらい、区からの予算を使って材料を調達し、背後の高地の途中まで自前で避難路を整備しました。町からの協力も得て避難路は平成 14 年度に完成。その後も、新たな避難路確保のための取り組みを続け、現在では、合計 4 本の避難路を確保しています。

●問：要援護者（避難する際に援護を必要とする人）対策の取り組みについて教えてください。

○答：災害時での要援護者の避難支援者を記した避難台帳の整備を進めていますが、避難支援者がなかなか見つからないといった課題や、個人情報を取り扱う事の難しさがわかってきました。要援護者対策では、日頃からの隣近所の付き合いが大事で、区の皆さんにもそう呼びかけています。

●問：昨年実施したウォークラリーはいかがでしたか？

○答：ウォークラリーには地区の住民だけでなく、近隣の小学生やその父兄にも参加してもらい、総勢約 80 名の方に参加して頂きました。随所にパネルを設置し、防災に関するクイズを行うなど、遠足気分ですら防災について考えていただくいい機会になったと思います。今年も 11 月に予定しています。

●問：最後に今後の課題と自主防災活動を続ける上で心掛けた方がいいと思う事は何でしょうか？

○答：今後の課題は、地域の若い人をいかに吸収していくかです。子供と一緒に父兄が参加したり、防災への関心が高まるようなアイデアが必要だと考えています。

自主防災活動を続けていく上で心掛けた方がいいと思う事は、日常生活の中で、無理せず自然に防災意識を身に着けていくということと、そのために自分の命は自分で守ることを常に意識づける事だと思っています。



一昨年度のウォークラリーの様々。近隣の小学生も参加しました。



一上の総合運動公園に至る避難路。手前の部分から整備にかかりました。

## トピックス 防災・紀州東西南北

### ●避難所体験合宿訓練を経験して (那智勝浦町)

今年、行政と自主防災組織とが連携して、避難所運営の課題等を検証するため、県下4箇所(和歌山市、樺本市、田辺市、那智勝浦町)で避難所体験合宿訓練を実施しました。那智勝浦町勝浦4区自主防災会会長の和泉 孝さんに体験合宿について話を伺いました。

去る7月23、24日東南海・南海地震が発生したという想定で、旧勝浦1～6区住民を対象に避難所体験合宿訓練を実施しました。

訓練では実際の時間の流れに沿って避難所を運営しましたが、運営スタッフとして、明確な役割分担の必要性、簡素化されたマニュアルの必要性を感じました。また、私達4区では、独自に各世帯の情報を把握していましたが、今回の訓練ではその情報の一部を活かすことができました。

当日はあわせて他地区との無線通信訓練も実施されましたが、発災時の孤立化が心配される中、この訓練は有効だったと思います。当地においては、実際に避難所が開かれた経験が無く、このような疑似体験を重ねることにより、対応力が身に付くものと思われます。運営委員長としては、思った

より参加者が少なく、住民の危機意識が足りないと感じました。今後は勉強会などを通じ、啓発していきたいと思います。



### ●津波避難タワーでの避難訓練実施 (串本町堀笠島自主防災会)

タワーを使った避難訓練も実施されました。堀笠島自主防災会会長の坂本 寛さんに話を伺いました。

この串本町堀笠島区は約300世帯、約500人が住んでいます。自主防災会を結成(平成15年)するきっかけは、避難所となっている串本高校の門の鍵を地元で預かるためでした。津波の危険地区では、地震後すぐに避難所に避難しなければならないため、地元で避難場所の鍵を預かっておくことが必要だったのです。平成16年9月の紀伊半島南東沖地震のときに、門の鍵を預けたが、体育館の鍵を預かっていなかったため、建物の中に入れなかったという苦い経験もあります。避難訓練などで実際やってみないとわからないことが色々あるとわかりました。

この地区には、避難ビルとなる高い建物がなかったため、町に要望し、今年5月に一泊避難場所となる避難タワーが完成しました。

### ●住民参加型の防災活動に取り組む 片男波自主防災会(和歌山市)

万葉集にも詠まれた景勝の地和歌浦片男波地区。地域住民の防災への関心は高く、その中心で活躍する片男波地区自治会長の玉置成夫さんと同防災部長の小原理孝さんに話を伺いました。

片男波地区には、420世帯1,200人あまりの人が住んでいて、自治会は6つの区、49の班で組織されています。その自治会組織をそのまま防災組織にしており、活動組織は、総括・広報部・防火部・救出救護部・避難誘導部・給食給水部で構成しています。

以前から地区で運動会を開催したりして、まとまりは良かったのですが、防災組織の立ち上げは平成17年4月のこと。やはり、昨今よく言われる東南海・南海地震の危険性がきっかけでした。

私も経験者の1人ですが、この地域は第2号台風で浸水し、その時の避難体験がある人が大勢いて、地震をテーマにした防災組織も比較的スムーズに立ち上がったと思います。

今までの主な活動実績は、①住民参加型で各区の避難地図を作ったこと、②それに基づきハザードマップを全戸配布したこと、③地域の防災訓練を実施したこと、④避難所体験合宿訓練を実施したこと(和歌浦地区全体)などです。

これまでの活動で苦労したのは、この地区にも自治会活動に熱心な方とそうでない方、また同じ区内でも顔を知らない人がいます。そんな方にも積極的に参加して欲しかったので、働きかけを工夫しました。会議案内に具体的内容を書かず、ただ「大変大事な会議ですので、全員出席してください」とだけ書きました。結果は成功で、都合のつく人は皆さん来てくれました。防災への関心が元々高かったせいか、感想を求めたら、全員感想を述べてくれました。その時は本当にうれしかったですね。

今後は特に、高齢者や障害のある方、難病を患っている方など一人では避難できない人の対策に力を入れていきたいと思っています。具体的には、そうした方が住んでいる家を地図上で明らかにしておき、いざという時には、地域全体で救助できるようにするというものです。個人情報の問題など難しい点もありますが、この地域でもととと高齢者が増加しております。今のうちに何とか整備しておきたいと思っています。

6月には、避難タワーへ避難する訓練を行いました。目的は多くの住民の方にこの避難タワーのある場所を知っていただくこと。また、実際何人ぐらい収容可能かを検証することでした。当日は予定を上回る約130人が参加し、約100人収容可能ということも確認できました。近くのお年寄りの方からは、いざというときに安心だといへん好評でした。今後いろいろ工夫して訓練を続けていきたい



と考えています。また、当地区には約30名の要援護者があります。ネット(漁師から網を無料でもらう予定)を使った搬送用具を自分たちで作り、体の不自由な方のいる家庭に配りたいと考えています。

- 県からのお知らせ● 来年1月18日(木)地震に関するセミナーを開催予定!(県民文化会館にて)
- ・中越地震や東海豪雨において活躍されたNPO法人「わが」スタッフ代表の栗田暢之氏が講演。
- ・元NHK解説員の伊藤和明氏を中心とした「福」ディスカッションも予定。是非ご参加下さい。(申込先: 県総合防災課)